

> 保存期限切れコロナワクチンの誤接種について（第2報）

> 8月31日

今回は、市のリスク管理において、不十分な対応があったことにより、ワクチン接種に大変お世話になっております宍粟市医師会の皆さま、誤接種となられた皆さまをはじめ、ワクチン接種について不安に感じられた市民の皆さまに深くお詫び申し上げます。

このことを受け、8月10日の臨時記者発表（第1報）以降、宍粟市医師会と宍粟市では、誤接種発生の要因（背景）の分析、再発防止も含めた協議を行い、下記対応により取り組むこととしました。

今後、市では、市医師会と今まで以上に連携を取りながら安全対策に努め、適切なワクチン接種を進めてまいります。

宍粟市長 福元晶三

≫≫ 誤接種発生の要因（背景）について

① 個別接種で使用するワクチン（瓶）について、市医師会は、市から各医療機関に配布する案を提案したが、市は、広域な市域とワクチン配布にかかる業務内容を考え、各医療機関に市庁舎までに取りに来てもらう方式とした。7月下旬以降は、特にワクチン接種を行う各医療機関では、通常診察と相まって、コロナウイルス感染症の検査や診察が急増するなか、医療関係者にはワクチン接種にかかる準備、負担が想定以上の状況となっていた。

（対応）個別接種で使用するワクチン（瓶）の配布方法について、各医療機関の負担軽減を図るため、個別配布も含め市医師会と調整します。

② 医療ひっ迫の状況下で、市は各医療機関のワクチン受領にかかる負担軽減を考え、接種を見通したワクチン（瓶）を事前に配布した。また、市はワクチン配布にかかる一連の管理事務（ワクチン要求、配分、接種者突合、接種後確認）が不十分であった。

（対応）適正数量のワクチン（瓶）配布に向け、市の管理事務を徹底します。

③ 全国で保存期限切れのワクチン誤接種の報道がされるなか、市でも同様事案の予見ができたと考えられるが、各医療機関でのワクチン使用時に容易に保存期限が判別できるよう何らかの工夫や、各医療機関へ保存期限切れワクチンの誤接種防止に向けた新たな注意啓発等の工夫を講じる必要があった。

（対応）ワクチン（瓶）の保存期限が容易にわかるような改善、新たな注意啓発等の工夫をします。

市では、市医師会と連携を取りながら改善策を講じるなど、引き続き安心して接種を受けていただけるよう努めてまいります。